

# 被災地復興に向けた 木工団地の活用策について



照井 文雄 議員  
(清風会)



石垣の修復が待たれる千葉家住宅

**問**

伐期を迎えた、あるいは伐期を過ぎた森林が沿岸被災地にも多いと聞くと、復興への利用を考えると、木工団地の活用を願うものだが、当局の考えを伺う。

**答**

遠野市の地場産材を利用し、設計から施工まで市内業

者、加工は木工団地の循環型システムが役割を担い「縁がなくなぐ仮設住宅」を40戸整備したところである。今後、復興計画が策定され、本設住宅の建設が進むものと考えられる沿岸被災地へ、本市で製材やプレカット加工をして住宅資材を供給する

仕組みを考え、釜石市・大槌町の関係者と協議をしながら「復興住宅づくりのシステム」を進めてきた。11月1日に釜石市・大槌町・遠野市の林業・木材・住宅産業関係団体で構成する「上閉伊地域林業・木材・住宅産業振興協議会」を設立する事が出来た。今後は被災者の方々が安心して暮らせる住宅を提供し、伐採した山林に再造林を行い、上閉伊地域が連携しながら、震災復興と雇用創出を実現し、林業・木材・住宅産業の活性化を図っていききたい。

**問**

国重要文化財「千葉家」の保存と東日本大震災において、石垣が崩壊し、観光客の通路も狭くなり危険であるが、今後の取り組みについて伺う。

**答**

「千葉家住宅」は、南部藩の曲がり屋として重要であることから、平成19年に国の重要文化財に指定された。建物は約180年を

経過し、昭和49年の屋根の葺き替えから37年を経過し、地盤の沈降、建物の老朽化が著しく、大規模な修復が必要であることから、遠野市総合計画、前期・後期基本計画にも搭載し、地元の賛同も得て、保存活用の中で公有化を図ることとし、千葉家と覚書を交わしたところである。現在、公有化に向けて測量及び評価調査を実施している。石垣の修復については、6月に文化庁と協議を行い、国及び市の補助事業により災害復旧を行うこととなった。石垣の修復は冬季工事を避けるため、来春からの工事となる見込みである。石垣の上の通路は、復旧するまで遮水処理等を行い安全について注意を払っていく。今後はさらに専門家や皆様の意見を聞きながら保存管理計画を策定し、保存の方法や管理運営の在り方や方針を平成26年から28年度に修復や防災設備事業を行う計画である。